

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 9 月 19 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870201179
事業所名	グループホームヒロセ
(ユニット名)	もくれん
記入者(管理者)	
氏名	南 賢次
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 相手を思いやる「和」の心と利用者様に「誠意」をもって接する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議の開催日に防災訓練を行い、参加者に様子を見ていただいた。 運営推進会議の内容や議事録を掲示し、面会時に家族様に案内も行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 幹線道路から少し入った閑静な田園地帯に事業所は立地し、利用者は穏やかな環境の中で、ゆったりとした生活を送ることができる。敷地内には、同法人の介護老人保健施設等が隣接しており、法人内研修や防災訓練などを合同で実施し、日頃から連携を図ることができている。法人は医療法人で、24時間の医療連携体制が整備され、急変時等にも医師や看護師等から必要な指示や助言を受けることができ、利用者や家族、職員には安心感がある。事業所での看取り支援は近年行われていないが、法人のグループ内には特別養護老人ホームや老人保健施設等があり、事業所では対応できなくなった場合には、転院の支援も行われている。また、事業所では、一人ひとりの特性を理解した個別ケアを実施し、利用者が持っている能力を発揮して、できる限り自立した生活を送れるよう支援している。職員は利用者の意向を大切に、寄り添った介護の提供に努めており、訪問調査日には、職員が利用者との目標を合わせて、寄り添いながら話しかけるなど、穏やかに利用者が過ごしている様子を窺うことができた。さらに、法人・事業所として、職員育成に力を入れており、計画的に法人内研修を実施するほか、職員一人ひとりのレベルに応じた外部研修の参加や介護福祉士等の資格取得を促すなど、スキルアップの支援も行われている。加えて、月2回事業所には訪問診療で医師である代表者が来訪し、管理者から意見を聞くほか、職員から出された意見を伝えることもできる。管理者は職員から意見が出しやすいように、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員が、他の事業所の管理者等にも相談できる体制が整えられるなど、働きやすい職場環境づくりが行われ、職員の離職率は低くなっている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	その人らしい暮らし方や思いに添うようになっている。	◎	/	○	事業所では、センター方式のアセスメントシートを活用して、利用者一人ひとりの特性や状況を把握するよう努めている。耳の遠い利用者にはメモを活用したり、言い表すことの難しい利用者には、表情やしぐさなどを観察したりするなど、思いをくみ取るよう努めている。また、電話連絡時や来訪時に活用して、家族から意向などの聞き取りや確認を行い、随時アセスメントシートに記録し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その人らしい生き方を検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様面会時や電話等で本人の状況を伝え、カンフェレンスを行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の気持ちや言ったことを記入し、職員同士共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士で意見を交換し、本人の思いを見落とさないようになっている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時、気持ちシートを作成し、今までの暮らし方等を聞き記録している。	/	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面会し、生活歴や生活環境、こだわりなどの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員などから、サービス利用の経緯や病状などの詳細な情報を得ることもある。また、日々の生活の中で、利用者毎の担当職員を中心に、利用者から新たな情報を聞き、アセスメントシートや申し送りノートなどに記録を残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者様との関わりの中で、出ること出来ないこと等の確認をしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	1日の過ごし方を記録し、情報を共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	積極的に声掛けや関わりを持ち、必要としていることを考えている。	/	/	○	利用者毎の担当職員が、日頃の利用者の生活の様子をまとめている。また、事前に、利用者や家族の希望や意向を聞くとともに、主治医や看護師から意見などの聞き取りをしている。把握した情報をもとに、利用者の視点に立って職員間で話し合い、より良い生活が送れるように検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人ができることを検討し、支援している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向や要求を聞き、暮らしの中に投入している。	/	/	/	担当職員がアセスメントで得た情報をもとに、カンフェレンスを活用して利用者の課題等を職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族・職員等で話し合って意見交換している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その人らしく穏やかに過ごせるように努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	運営推進委員会にて地域の人の意見を聞き向上に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で共有できるよう記録している。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、カンファレンスを活用して職員間で共有するとともに、計画はファイルに綴じられ、介護記録を記載する際などに、職員は確認することができるようになっている。また、介護記録には介護計画のサービス内容の番号が記載され、介護計画に沿った支援が行えているかを確認できるように工夫されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画にそってケアを行い記録して状況確認を行うよう努めている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月毎に見直しをしている。	/	/	◎	入居後すぐに、2か月間の暫定の介護計画を作成して支援を開始するほか、その後は、短期目標の期間に応じて、3か月に1回計画の見直しをしている。新たな要望や状態の変化が見られない場合にも、担当職員を中心に、毎月利用者一人ひとりの現状を確認するほか、利用者の生活の様子をまとめ、職員間で共有している。また、計画の更新前には、モニタリングを実施し、継続の有無などの評価をしている。さらに、入退院などの心身状況の変化が生じた場合には、必要に応じて関係者等と話し合い、現状に即した新たな計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回は現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	職員・家族と話し合い、本人がより良い暮らしができるよう見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	医療関係も含め個々の状況把握に努めている。	/	/	○	道路を隔てた場所にある同法人のグループホームと合同で、月1回定期会議を開催し、法人本部から運営に関する事柄などの情報共有をしている。また、月1回別々の日にユニット会議を開催し、利用者一人ひとりの課題等の話し合いをしている。事前に、会議の日程調整を行い、できるだけ多くの職員が会議に参加できるようにしている。また、会議に参加できなかった職員を含めて、全ての職員に議事録を確認してもらい、確認後に押印する仕組みづくりをしている。さらに、緊急案件のある場合には、病院との情報共有をするほか、利用者の状況を確認し、管理者等を交えて話し合い、迅速な対応をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議時は気づいたことや思ったことは職員同士話し合いをしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	話し合いで決まったことは伝達ノートに記入している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートに記入し、職員に情報が伝わるように把握できていれば印を押している。	◎	◎	日々の朝夕の申し送りを実施している。出勤時に必ず申し送りノートを確認し、確認後に職員は押印をしている。また、重要な情報は口頭でも伝達を行い、確実な情報伝達に繋げている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様の意見を尊重し、できる限り意見にそえるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの意向や思いを大切に支援に努めている。また、日常生活の様々な場面で、職員は利用者の状況等に応じた複数の選択肢を提示するように努めるとともに、返事を急がせることなく、待つ支援を心がけ、利用者自身に自己決定してもらえるよう支援している。また、事業所には女性の利用者が多く、化粧や身だしなみなどのおしゃれに関する話題提供を行うことで、利用者同士の会話が増えることもあり、職員は笑顔で楽しい生活が送れるような雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自身でなるべく自己決定することができるよう、複数の選択肢を用意する等の工夫をしている。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者様の一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員は笑顔で明るくケアをし、利用者様がリラックスできる雰囲気作りを努めている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	意思疎通が困難であっても言葉掛けをしっかりとし、その際のちょっとした反応を見逃さないように注意深くケアしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	認知症であっても1人の人間だということをしっかりと胸に刻み、プライバシーを大切にケアをしている。	◎	◎	◎	定期的な法人内研修や勉強会の中で、職員は利用者の人権や尊厳を学び、意識した対応に努めている。利用者一人ひとりの疾患や認知度により対応方法が変化するため、職員一人ひとりの習得度や理解に合わせた研修の機会を提供している。訪問調査日には、職員が丁寧な言葉かけや支援を行う様子が見られ、安心した表情からも、利用者の居心地の良さを窺うことができた。また、居室への出入りの際には、事前にノックや声かけを行い、利用者からの返事を待ってから入室をするのと同時に、居室の不在時には、事前に入室する理由を利用者に説明し、了承を得た上で職員は入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時や入浴時にはプライバシー等に配慮し、安心できるような介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際は必ずノックしたり、声掛けをしプライバシー等に十分配慮しながら行っている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者様のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止について、しっかり理解し遵守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さまと日々互いに助け合い、人生の先輩として色々なことを教えてもらったりして感謝しあっている。				利用者の認知症の特性を把握した上で、一人ひとりに応じた支援を心がけ、職員は声かけの工夫をするなど、利用者の気持ちが落ち着くような支援に努めている。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、配席を考慮するとともに、大きな声を出すなどのトラブルが起こりそうな場合には、早期に職員が間に入り、話を聞くなどの対応を行い、トラブルを避けることができている。さらに、季節の壁飾りを作成する際には、利用者の特性などに応じた作業を割り振りを行うなど、利用者同士が協力をしながら、完成できるような配慮も行われている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が助け合い支え合って暮らしていくことの大切さをしっかりと理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者様同士の関係をしっかりと把握しその都度席替えをしたり、職員が間に入り関係を上手く保つことができるように工夫し、利用者様同士が支え合えるような支援に努めている。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様同士のトラブルがあった際には、同じことが起きないように対策し、他の利用者様に不安や支障を生じさせないようにしている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者様の周りの人間関係もしっかりと把握することができている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナウイルス感染予防の為にリモート等を活用し、これまで大切にしてきた人との関係が途切れないよう支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	月に数回、外出支援を行い利用者様の希望を聞き、時間・行き先を自由に行えている。その他施設外周を雨天時を除き毎日行っている。	○	×	○	コロナ禍が続き、感染対策による外出制限は設けられているが、事業所では、できるだけ利用者が自由に外出し、気分転換が図れるよう支援している。雨天時以外の日は、日課として事業所周辺を毎日散歩するほか、月2回程度のドライブレクリエーションを行い、今治城等に出かけたり、季節の花を見に行ったりするなど、日頃から外出支援を行うことができている。重度な利用者も一緒に、可能な範囲でリフト車を活用して、出かけることができている。また、家族の協力を得て、病院の受診時に合わせて美容室等に出かけたり、希望に応じてお墓参りに出かけたりするなど、利用者の気分転換にも繋がっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナウイルス感染予防のため、施設の職員のみで外出支援を行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会等を通して認知症について正しく理解し、一人ひとりの利用者様の状態にあったケアを行っている。				職員は法人内研修等で学び、認知症の特性などを理解している。また、タオル体操や散歩、生活リハビリなどを介護計画に取り入れ、利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう支援している。さらに、食後の片付けや洗濯物たたみなど、利用者自身にできることやできそうなことをしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めることで、利用者自らが達成感を得られるような支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	身体面の機能が低下しないように習慣的に体操や生活リハビリを取り入れ、維持・向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その人の有する力を引き出すことができるようには見守り、様子を見て声掛けをしたり一緒に行うようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様一人ひとりとしっかりコミュニケーションをとり、会話を通して何が楽しいか等考え、その人にあったケアを心がけている。				日々、利用者が楽しみや喜び、張り合いのある生活が送れるように、職員は声をかけ、清掃や洗濯物たたみ、食器の後片付けなどの出番や役割を担ってもらえるよう取り組んでいる。一人ひとりの利用者は楽しみや役割意識を持って手強い、職員から感謝の言葉を伝えることで笑みがこぼれるなど、自信や満足感にも繋がっている。中には、上手に洗濯がためない利用者もいるが、管理者は「成果が伴わなくても、実際に実施してもらうことが大切である」と考えている。また、家族との交流も利用者の喜びの1つであり、手紙のやりとりなどの支援も行われている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりにあった楽しみ事や役割分担をし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように工夫し取り組んでいる。	◎	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者様の好みの服を選び、身だしなみやおしゃれをしている。	/	/	/	事業所では、利用者の自尊心やプライドを大切に支援にも努めており、トイレの後に、着衣の汚れや乱れが見られた場合には、職員は気を配り、周りの利用者には気づかれないようにさりげなく声をかけ、誘導などのサポートをしている。訪問調査日には、着衣の乱れや違和感のある装いで過ごす利用者様は見えなかった。また、月2回訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室に出かけ、パーマや毛染めをする利用者もいる。さらに、重度の利用者にも日中には着替えをもらい、髪型などの身だしなみを整え、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	服や持ち物、趣味等を利用者様に聞き、家族様に伝え相談している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスを等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人様一人ひとりの気持ちを伺い、アドバイスしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	利用者様一人ひとりに季節にあった服装をアドバイスしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカパーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れ等に基づいたらその都度配慮しカパーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人様の希望にそうよう支援している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態でも髪型など気をつけ支援している。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	その日のメニューを提示し、利用者様へわかりやすく季節感を感じる食事に心がけている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	その日のメニューを提示し、利用者様へわかりやすく季節感を感じる食事に心がけている。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所内で調理することができていたが、現在は暫定的に、隣接する同法人の介護老人保健施設の厨房で調理されたおかずなどが事業所に届けられ、各ユニットで炊飯や汁物づくりを行い、盛り付けをして利用者様に提供している。法人の管理栄養士が献立を作成し、季節の食材を取り入れながら、栄養バランスの取れたメニューとなっている。一人ひとりのアレルギーのほか、嫌いな物がある場合には、代替えの食材を提供するなどの対応をしている。利用者の状態に応じて、刻みやミキサー食などの食事の形態にも対応している。また、月1回利用者の希望のメニューを提供する食事が開催され、事前に職員が好みのメニューの聞き取りを行うなど、事業所内で調理した食事は、利用者様に喜ばれている。利用者には、テーブル拭きやお茶を運んでもらうほか、能力に応じて、下膳や食器洗いなど食後の片付けを手伝ってもらっている。入居時に、茶碗や汁碗、湯飲み、箸などの食器類を持参してもらい、使い慣れた物を使用してもらうほか、利用者の状況に応じて、事業所で用意した使いやすい物を個別に使用している。食事の際に、職員は感染対策に留意し、間隔を開けて利用者と同じテーブルで食事を摂りながら、見守りや食事介助を行っている。また、重度な利用者も、食事前にはリビングに出て過ごし、口腔体操を実施するほか、炊飯の匂いや配膳の様子なども感じられ、食事の雰囲気を感じることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	法人栄養士の作成したメニューを提供し、後片付け・テーブル拭き等してもらっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	テーブル拭きやお茶くみなど、利用者様の出来ることをしてもらい、達成感につなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者様の好みやアレルギーを職員各自が把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	法人栄養士が献立を作成して、季節や行事にあった献立になっていて楽しめる。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の身体状態を毎日把握し、その都度状態に合わせて調理方法をしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	お茶碗・コップ・箸等、個人の使いやすい物を使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒にテーブルを囲み、食の進まない利用者様には声掛けや介助をしている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前に本日のメニューの会話をし、食事が楽しみになるよう心がけている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりの体調・体型や年齢に応じて食事や水分量を確保できるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりの状態にあった調理をし、声掛けをして低栄養や脱水にならないようにしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	法人の管理栄養士が1日の摂取量を計算している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒などに気をつけ、手洗い・消毒に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食前に嚥下体操を行い、毎食後口腔ケアを行っており、誤嚥性肺炎の予防に努めている。	/	/	/	歯科衛生士などから指導を受けて、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声かけをして、共有スペースにある洗面台への誘導を行い、口腔ケアを実施している。利用者の状態に応じて、職員は見守りや介助を行うとともに、一人ひとりの口腔内の確認を行い、状況の把握に努めている。また、利用者の状況に応じて、スポンジブラシなどの口腔ケア用品を使用し、適切な支援に努めている。さらに、口腔内の異常が見られた場合には家族に報告し、歯科受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアや食事の様子を見守り、必要に応じて声掛けし把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	家族様・本人様の意向を都度確認しながら、定期的に歯科衛生士より指導を受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後口腔ケアを行っており、見守り必要に応じて介助を行い就寝後義歯の洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後口腔ケアを行っており、必要に応じて声掛け・見守り・介助を行っている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレの声掛けを行い、トイレで排泄出来るよう気をつけている。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで用を足すことを基本として支援が行われている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は状態に合わせた声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、紙おむつを使用する利用者もいるが、ほとんどの利用者は日中に紙パンツを使用して過ごし、トイレで排泄をすることができている。排泄用品の使用の際には、利用者の心身状況や排泄状態などを踏まえて、パッドやおむつなどの排泄用品の必要性を職員間で話し合い、家族に相談した上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分補給や適度な運動を日常生活の中で行っており、スタッフがなるべく把握している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレに行かれると記録を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者一人ひとりのレベルに合わせて、トイレでの排泄ができるよう心がけている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	散歩や適度な運動・水分補給・個々に合わせた下剤等、主治医に相談しコントロールを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	失敗を防ぐために個々に合わせたリズムで声掛け指導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員が尿量を把握しており、パッドが汚れた時は本人様の自尊心が傷つことがないような声掛けを行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者様の状態に合わせて日中・夜間で使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給の声掛け・腹圧マッサージを行い排便を促している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	基本的に2、3日に1回入浴し、体調にも気をつけつつ入浴できるよう努めている。シャワー浴等も取り入れている。	◎	/	○	週に2～3回程度、利用者は入浴することができる。事業所の行事のほか、職員の勤務体制により、午前中の時間帯を中心に入浴支援を行うことが多いが、湯温や湯船に浸かる時間の長さなど、体調に問題のない範囲で利用者の希望に添った支援に努めている。また、事業所では毎日の入浴も可能なように浴室の準備を行い、利用者から希望が出された場合には、入浴できるように対応している。また、利用者の体調のほか、希望により入浴できない場合には、シャワー浴や足浴に対応するとともに、清拭などを行い、清潔保持に努めている。さらに、入浴時には自分でできる部分の洗身をしてもらい、職員はできない部分のサポートをしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	穏やかな気分で入浴できるよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人様が出来る所はご自分で行って頂き、ほかは介助で行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	職員とコミュニケーションを取りながら気持ちよく入浴出来るように努めている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	体調を把握し、毎朝バイタルチェックを行っている。症状によりかかりつけ医にも確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者様の体調や気分等記録し、睡眠パターンを把握している。	/	/	/	事業所では、体操や散歩などを取り入れて、日中を活動的に過ごしてもらうことで、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。管理者は、「早い時間帯に入眠する利用者もいるが、夜間目覚めても睡眠時間が確保できていれば、個々の生活リズムの範囲である」と考え、無理強いをしない支援にも努めている。中には、なかなか寝付けない利用者もあり、飲み物を提供して職員と一緒に話をしながら過ごすなどの支援を行い、安易に薬に頼らない支援を心がけている。また、不眠が続く、日中の活動に支障をきたす場合には、利用者の状態を伝えて看護師や医師に相談し、眠剤を処方してもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中体操やレクリエーションを行い活動できるよう努めている。外気浴・散歩を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中家事活動出来るよう声掛けし、支援できるよう努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様一人ひとりに合わせ休息している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様の希望をできるだけ行えるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	利用者様の必要な支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ステーション内の電話で訴えがあれば電話ができるよう行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙のやり取りや電話ができるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	訴えがあれば電話することを伝え、理解・協力してもらえるようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人の思いについて確認しています。お金の管理はご家族様にお願いしています。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	希望に応じて協力しています。ご家族様と連携を図りお願いしています。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	必要に応じて本人様と確認しながら対応しています。ご家族様に伝え協力をお願いしています。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会やカンファレンス、日頃から必要に応じて本人・ご家族様と話し合っています。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	日常のお金は預かっていませんが、必要な時はご家族様が管理して対応されています。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人様・家族様の状況に応じ、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。	◎	/	◎	コロナ禍が続き、面会や外出などの制限が設けられていたが、利用者や家族からお墓参りなどの外出希望が出された場合には、法人本部と相談しながら、可能な範囲で柔軟に対応している。また、病院受診の際に、家族の同行支援の対応できない場合には、職員が付き添い、受診対応をすることもある。さらに、経済的な理由や体調の改善などで退居の希望が出された場合には、在宅サービスの情報提供をするなど、その時々ニーズにも対応している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先の段差をなくし、屋根を設置することで出入りしやすくなっている。	◎	◎	◎	事業所の周囲には、手入れされた山茶花や紅葉の植栽が植えられ、風通しや見晴らしも良く、来訪しやすい雰囲気を感じられる。また、玄関前はすっきりと整理され、玄関前や玄関フロアにはベンチが置かれ、来訪者や利用者はゆっくり休めるようになっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	台所からリビングルームが見渡せ、田園風景が眺められ心地よい空間となっている。	◎	◎	◎	広々としたリビングには小上がりの畳コーナーがあり、利用者の作業スペースなどに活用されている。大きなガラス窓から採光が入り、明るい共用空間から、利用者は田園風景や遠くの山並みを見渡すことができるなど、開放的な雰囲気が感じられる。また、リビングの壁には利用者の共同作品である月見の貼り絵が掲示され、窓から見える景色とともに、利用者は季節を感じる事ができる。さらに、事業所内は掃除や換気も行き届き、気になる匂いなどもなく清潔感があり、快適な空間となっている。訪問調査日には、利用者が思い思いにジグソーパズルを楽しんだり、職員と一緒に畳コーナーに腰を掛け、外を眺めながらおしゃべりしたりする様子を見ることができた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	コロナ禍から徹底し消毒を行っている。環境整備もしている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	壁紙づくりを工夫し、季節感を感じて頂き楽しませている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	一人になれる居場所も工夫しつつ、仲の良い利用者同士話し合える居場所を作りをしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族様との写真を飾ることで居心地良く過ごせるよう工夫している。	◎		○	居室には、エアコンやベッド、チェストや椅子が備え付けられているほか、大きなクローゼットに荷物などを収納することもでき、すっきりと片付けられた空間も多い。中には、テレビを持ち込むほか、家族の手紙を飾るなど、一人ひとりに合わせた居心地の良い空間となるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を職員が理解把握することで、安全に自立した生活が送れるよう配慮している。			○	居室の表札には氏名を記載しているほか、それぞれ違った花や草木の造花を飾り、目印にしている。認識することが難しい利用者には、個別に居室の入り口に花飾りを付けたり、大きなトイレの表示や矢印を貼ったりするなどの工夫をしている。また、居室のチェストには、中に入っている物を分かりやすく表記をしたり、洗濯物を自分で出せるように、洗濯ネットを用意したりするなど、利用者の自立を促す工夫をしている。さらに、夜間に利用者の声かけをする際には、利用者の状態に応じて、電気や点灯の有無のほか、声かけの仕方を変えるなど、混乱しないように職員は個別に対応をしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者様の馴染みのものがさりげなく置かれている。レクリエーション用品・雑誌・趣味の用品等置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	居室の鍵はかけることなく過ごされている。日中は玄関に鍵をかけなくても済むよう工夫している。	◎	○	◎	職員は、ユニットの入り口や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中に施錠は行われていない。外に出ようとする利用者には職員が付き添うとともに、何をしたいのかを傾聴し、満足できるような対応に努めている。訪問調査日には、2階ユニットのエレベーターホールで聞き取り調査を実施していたが、利用者が自由に出入りする様子が見られ、その都度職員と一緒に付き添って1階に降りたり、窓から景色を眺めたりするなど、利用者の意向に沿うような対応を確認することができた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵は最低限だけにし、安全管理の重要性の理解を求めている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員は一人ひとりの病歴や現病について把握するよう心がけている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者様一人ひとりの体調変化に注意し、変化があった場合は記録するとともに職員全員が把握するよう努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることや体調変化があれば、かかりつけ医・看護師に連絡し、重度化の防止に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	契約時に今までの受診状況をお聞きし、家族様・本人様の希望にそえるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人様・家族様の希望をお聞きするとともに安心して適切な医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果の報告等、その都度家族様と話し合いを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人様の普段の生活の様子や状態等主治医と連携し、本人様が安心して治療を受けられよう支援している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	利用者様が入院中の場合も主治医と連携を図り、安心して治療を受けられるように支援している。症状等についてご家族様にも情報交換している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者様の状態の変化が見られる場合、看護師へ報告を行い対応についても相談・指示を受けている。医療機関との連携も図れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	広瀬クリニック、訪問看護、在宅支援診療所との連携を図り、24時間の医療連携可能な支援を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	バイタルチェックを毎朝実施し、状態変化があれば広瀬病院・広瀬クリニックへ報告し、受診・往診を早期に受けられる体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方箋を保管し、薬の内容を確認し服薬支援を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	複数の職員で飲み忘れ・誤薬を防止するため、名前・日付を声に出して確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の生活の様子や変化を定期受診等の医療機関へかかる際に報告し、薬の見直しを行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約の際に家族様へは必ず説明を行い、重度化・終末期を迎えた際には本人様と家族様の意向を伺い、今後の方針を共有できるよう図っている。				
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	訪問看護、広瀬クリニック、在宅支援診療所と連携、方針の共有を行っている。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期ケアを開始するにあたり、マニュアルと話し合いにて不明点がないか再確認し、必要に応じて勉強会の実施、十分なケアを把握出来るよう努めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約の際に家族様に説明を行い、理解同意を得る。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療連携可能な状態を24時間間に整えており、本人様の状態によって報告し、ケアの方針の見直しもしつつ利用者様が安心して生活できるようチームケアに努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様との面会時には状況等を説明し家族様への対応を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	月2回隣接している老健にて勉強会への参加や外部研修に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染マニュアルを作成しており、職員全員がマニュアルに沿った対応を行えるよう把握している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	外部や広瀬クリニック等の感染症流行の情報を定期的にチェック等を行っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員はケア後、手洗い消毒を徹底し、利用者様も食事・おやつ前の手指消毒を実施している。来訪者の方にも手指消毒とマスクの着用をお願いしています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様の来訪時は職員と家族様との信頼関係を築けるようコミュニケーションを図っている。	/	/	/	コロナ禍以前には、法人・事業所として毎月家族会を開催し、一緒に食事をするなど、交流を図ることができていた。現在は、集合形式での家族会の実施はできていないが、職員が家族から電話で意見や要望を聞くなど、家族会の記録を残すことができています。コロナ禍が続き、感染状況に応じて、ガラス越しやリモートの面会などに対応をしていた。5類に移行した現在も、地域の感染者は増加傾向にあるため、対面での面会時にも制限を設けられ、お互いに触れ合うことはできないが、法人本部と相談しながら、今後の対応方法を検討している。また、月1回程度、職員は家族に電話連絡を入れ、利用者の近況を伝えるとともに、必要な差し入れなどの要望があれば伝えて事業所に持参してもらうことで、利用者との直接会話ができる機会にも繋げている。さらに、家族会等のこれまでの関わりから、家族との良好な関係が築かれ、近隣に住む家族も多いことから、家族同士の横のつながりなどの関係もあり、職員は様々な意見を聞くことができています。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	面会・来訪しやすい環境作りを行っているが、コロナ禍で制限している。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	コロナにより家族様と一緒に行事に参加する機会が減少している。電話等により関係者及びご家族様と連携している。また、日常変わったことがあれば必ず連絡をしている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族様へ認知症の進行状況を報告し、本人様・家族様の意見を尊重しつつどのような支援を提供していくか話し合い理解していただけるよう努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族様の来訪時には状況報告や職員の異動を説明している。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしながら対応策を話し合っている。	○	入居相談や契約の際に家族様へしっかりと説明を行い、理解を得て支援内容の話し合いを行っている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様の希望や意見等あれば、管理者へ報告するなど事業所として対応している。また来訪時には家族様がゆっくりと傾聴できるよう声掛けを行い、良好な関係を築けるよう心がけている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約の際に家族様へ説明・理解を得ている。変更ある場合、その都度伝えている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居の際は家族様の移行を踏まえてカンファレンスを実施し、退居されている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域に根ざすグループホームとしての役割を運営推進会議や行事の際に説明をし、理解を得ている。	/	◎	/	コロナ禍が続き、事業所周辺の散歩時に、あいさつを交わす程度に留まっている。以前と比べて、地域行事の開催も減少しているが、今年5月には、地域の神輿の来訪があり、利用者を楽しんでもらうことができた。管理者は、自治会との連絡を密に取りながら、地域の情報を得て、積極的に地域行事への参加に努めている。盆踊りなどの地域行事に参加する際には、ヒロセの職員等として参加協力し、職員は地域住民から認知されるように努めている。また、法人・事業所として、女性コーラスグループのボランティアの受け入れも予定しており、今後管理者は、「近隣の保育園や中学校との交流を再開したい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地方祭や盆踊り、文化祭等地域の活動や行事へ積極的に参加し、地域と繋がりがながら暮らし続けられるように支援している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	◎	外出時、よく声をかけて頂き付き添ってくださることもある。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	行事がある時は声掛けをし、気軽に来ていただいている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	通学や帰宅途中の見守りとして、日常的に挨拶は欠かさず行い、声を掛け合っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	慰問や訪問での交流があり、日頃から支援してくださっている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の行事やイベントで公共施設に出かける際には、グループホームの特性を説明し、理解を拡げる努力をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	地区総代・民生委員・市会議員・利用者様本人・ご家族様の参加がある。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、地区総代、民生委員、元民生委員、婦人会、事業所職員、市担当者等の参画を得て開催している。コロナ禍のため、書面開催が続いているが、会議の参加メンバーには事前に電話連絡して運営状況を報告し、意見の聞き取りをしている。また、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画、取り組み状況などの報告をしている。事業所の状況や行事報告を記載した会議録を全ての家族に送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	現状報告とともに評価と向上のための取り組みなど、詳しく説明しており議事録も公表している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間等についてはあらかじめ決まっているが、状況に応じて変更できるよう配慮している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎日朝礼や昼礼時に理念を唱和し、「その人らしい生きがいのある心地よい今」を実践できるようなケアを行っている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ホームページに掲載。利用者様やご家族様にはパンフレットで入居時に伝えている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内研修を毎月行い、職員1人ひとりのレベルに応じた法人外研修にも参加できるよう支援している。	/	/	/	法人として、定期的に法人内研修を実施し、職員のスキルアップに努めている。外部研修への参加や介護福祉士の資格取得などを職員に促し、研修費用の助成や必要な休暇取得の支援を行い、職員が向上心を持ちながら、働けるような配慮が行われている。また、代表者は、訪問診療で月2回来訪し、管理者から意見を聞くほか、職員から出された意見を伝えることもできる。さらに、日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にして、話しやすい雰囲気づくりに努めている。加えて、法人内に相談窓口を設置するほか、ストレスチェックを実施するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月ある法人内の勉強会に参加してもらい、実践につなげながらスキルアップを目指している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各自が向上心を持って働けるような職場環境を整えるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	今治市グループホーム交流会に参加し、研修の報告を通じて他の職員の意識向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	何でも言える雰囲気づくりに努め、定期的な面談でストレスチェックをしている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	職員全員が指示基準を正しく理解できており、実践できている。虐待防止対策指針に基づき実施して周知している。	/	/	◎	事業所には、「虐待防止対策指針」があり、定期的に研修を実施し、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。また、職員は高い意識を持ち、気になることはお互いに注意し合うとともに、上司に報告して、話し合いの場を持つことができている。さらに、大きな声やきつい言葉づかいなど、職員の無意識な行為に対しても、管理者から個別に該当職員に注意喚起を行うとともに、職員間の気づきを得られるような働きかけをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月の申し送りや随時行なうミーティングなどで振り返りを行い、意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	無理のないケアを行うように周知し、全員で個々に負担のないように注意・配慮している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に研修を行うことで全職員が禁止行為について理解できている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	利用者様1人ひとりの状態を把握し思いを尊重することで、身体拘束のないケアができるよう現場で話し合いをしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	生命の危機を招くような危険行為でない場合は、拘束の必要性がないことを家族等に説明し理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	必要に応じて説明ができるよう知識を深めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	自己にあった制度を提案し、連携機関で支援が受けられるようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故発生等、対応マニュアルを作成しており周知もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会を開催し、知識習得・実践力を身につけるよう努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハットについて発生の有無に関わらず職員間で検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	常に利用者様1人ひとりの状態を把握し、必要に応じてリスクについて話し合い、事故防止につなげている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情のある時は、適宜対応して対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情を寄せられた場合、速やかに対応し、市にも報告している。				
		c	苦情に対しての対策を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情への対策を検討し、改善した経過など伝え前向きに話し合っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や第3金曜日の家族会で個々に意見・要望を受けている。	◎		○	事業所の玄関には意見箱を設置し、利用者や家族から意見や要望、苦情を伝えられるようにしているが、あまり活用されていない状況となっている。日々の生活の中で、利用者から意見を聞くとともに、回答しづらい利用者には、状況に応じて「はいいいえ」で答えられるように、声かけの仕方の工夫をしている。家族からは、電話連絡時や来訪時に意見や要望などを聞き、可能な範囲で対応をしている。また、管理者は話しやすい雰囲気づくりを心がけ、毎月実施する定期会議のほか、日々の業務の中で職員から意見や聞き、サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりに繋げている。必要に応じて、管理者は職員との個別面談も実施している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見箱の利用やアンケートを実施し、運営に反映している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	全体会議等に参加し、意見交換を行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	全体会議などに意見や提案等を聞く機会を持ち、検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、自己評価に年1回以上取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果や目標達成計画、取り組み状況は、運営推進会議や家族会の中で報告しているが、現在の書面開催では一方的な報告になりがちになっている。コロナ禍の収束後には、集合形式の会議でサービスの評価結果や目標達成の状況を報告して意見をもらったり、家族や会議の参加メンバーに呼びかけて、目標達成の取り組み状況のモニターに協力してもらったりするなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価に対し目標達成計画の作成を行い、都度取り組みをしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議・家族会等に報告し、そのモニターをしてもらっている。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等でサービス評価の取り組みの成果を確認して、日常ケアに反映するようしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	大規模災害時対応マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	法人・事業所として、大規模災害時等のマニュアルを整備し、職員に周知している。事業所では、隣接する介護老人保健施設等と合同で、年2回日中や夜間を想定した避難訓練等を実施している。また、地域の防災訓練にも参加協力し、協力支援体制を構築している。さらに、運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施することで、地域住民や家族から事業所の災害への備えに対して、理解が得られるよう努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回、日中・夜間を想定し計画を立て、訓練を実践に沿って行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備、避難経路、保管している食品・水等、定期的に点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議開催時に避難訓練を実施・告知し、参加者様と一緒に協力体制を確保できている。	○	◎	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した共同訓練を利用者様家族・地域の方と行い、災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	日々の認知症ケアを活かし、勉強会や研修会等参加し、全体会等で報告している。	/	/	/	法人・事業所として、隣接する介護老人保健施設等と連携して相談支援が行われている。また、老人保健施設内には広い玄関ホールがあり、地域住民に対してイベント会場に開放するなど、地域貢献や啓発活動にも取り組んでいる。さらに、管理者は居住する地域で、認知症サポーター養成講座の開催に協力したこともある。加えて、市行政や地域包括支援センター、市グループホーム連絡会等と連携して、会議や研修等に参加協力をしている。コロナ収束後には、地域貢献活動の再開も期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談・支援を行っている関連施設・老健相談員と地域連携している。	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	隣接する老人保健施設と合同で行事を開催し、地域の人々に施設を開放している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の研修生や実習生を受け入れ協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地方祭や文化祭に参加したり、保育所とも交流があり地域活動を協力し行っている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 9 月 19 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870201179
事業所名 (ユニット名)	グループホームヒロセ つつじ
記入者(管理者) 氏名	南 賢次
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 相手を思いやる「和」の心と利用者様に「誠意」をもって接する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議の開催日に防災訓練を行い、参加者に様子を見ていただいた。 運営推進会議の内容や議事録を掲示し、面会時に家族様に案内も行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 幹線道路から少し入った閑静な田園地帯に事業所は立地し、利用者は穏やかな環境の中で、ゆったりとした生活を送ることができる。敷地内には、同法人の介護老人保健施設等が隣接しており、法人内研修や防災訓練などを合同で実施し、日頃から連携を図ることができている。法人は医療法人で、24時間の医療連携体制が整備され、急変時等にも医師や看護師等から必要な指示や助言を受けることができ、利用者や家族、職員には安心感がある。事業所での看取り支援は近年行われていないが、法人のグループ内には特別養護老人ホームや老人保健施設等があり、事業所でも対応できなくなった場合には、転院の支援も行われている。また、事業所では、一人ひとりの特性を理解した個別ケアを実施し、利用者が持つ能力を発揮して、できる限り自立した生活を送れるよう支援している。職員は利用者の意向を大切に、寄り添いながら話しかけるなど、穏やかに利用者が過ごしている様子を窺うことができた。さらに、法人・事業所として、職員育成に力を入れており、計画的に法人内研修を実施するほか、職員一人ひとりのレベルに応じた外部研修の参加や介護福祉士等の資格取得を促すなど、スキルアップの支援も行われている。加えて、月2回事業所には訪問診療で医師である代表者が来訪し、管理者から意見を聞くほか、職員から出された意見を伝えることもできる。管理者は職員から意見が出しやすいように、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員が、他の事業所の管理者等にも相談できる体制が整えられるなど、働きやすい職場環境づくりが行われ、職員の離職率は低くなっている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	その人らしい暮らしを送るためアセスメントを実施。状況に合わせて支援している。	◎	/	○	事業所では、センター方式のアセスメントシートを活用して、利用者一人ひとりの特性や状況を把握するよう努めている。耳の遠い利用者にはメモを活用したり、言い表すことの難しい利用者には、表情やしぐさなどを観察したりするなど、思いをくみ取るよう努めている。また、電話連絡時や来訪時に活用して、家族から意向などの聞き取りや確認を行い、随時アセスメントシートに記録し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日々、表情・しぐさ・行動を通して、本人の「思い」を検討し対応している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	手紙や電話を定期的実施、対応している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	センター方式や気持ちシートを作成し情報を共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	申し送りやノートを活用している。利用者様の表情や行動など変化を見落とさないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	今までの生活歴を聞いている活用としてセンター方式や気持ちシートを使用し、わかりやすくアセスメントしている。	/	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面会し、生活歴や生活環境、こだわりなどの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員などから、サービス利用の経緯や病状などの詳細な情報を得ることもある。また、日々の生活の中で、利用者毎の担当職員を中心に、利用者から新たな情報を聞き、アセスメントシートや申し送りノートなどに記録を残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	状態に対してしっかりと評価していき、変わったことを申し送りして変化を見落とさず、情報共有しています。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	認知症の特性を活かして個別ケアを実施したり、記録として24時間の活動内容を確認しています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメント実施し評価していき、ケアプランに本人の思いを取り入れています。	/	/	○	利用者毎の担当職員が、日頃の利用者の生活の様子をまとめている。また、事前に、利用者や家族の希望や意向を聞くとともに、主治医や看護師から意見などの聞き取りをしている。把握した情報をもとに、利用者の視点に立つて職員間で話し合い、より良い生活が送れるように検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	認知症状や状況に合わせてアセスメントを実施し、日々のケアを実施し情報の確認をしています。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いを確認し、アセスメントしている。	/	/	/	担当職員がアセスメントで得た情報をもとに、カンファレンスを活用して利用者の課題等を職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	カンファレンスや聞き取りを実施し、認知症の特性を活かし日々のケアを実施しています。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人・家族様の意向を反映し、日々の暮らしについて選択できるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	連絡を取る方法として、面会・電話・手紙など取り入れ話し合える環境を整備している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケース記録・ケアプランを記入し、日々のケアについて情報を共有している。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、カンファレンスを活用して職員間で共有するとともに、計画はファイルに綴じられ、介護記録を記載する際などに、職員は確認することができるようになっている。また、介護記録には介護計画のサービス内容の番号が記載され、介護計画に沿った支援が行えているかを確認できるように工夫されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個別ケース記録を活用しており、情報の確認や気付きについて共有し日々のケアに取り組んでいます。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月に1回を目安にして状況に応じてその都度見直ししています。	/	/	◎	入居後すぐに、2か月間の暫定の介護計画を作成して支援を開始するほか、その後は、短期目標の期間に応じて、3か月に1回計画の見直しをしている。新たな要望や状態の変化が見られない場合にも、担当職員を中心に、毎月利用者一人ひとりの現状を確認するほか、利用者の生活の様子をまとめ、職員間で共有している。また、計画の更新前には、モニタリングを実施し、継続の有無などの評価をしている。さらに、入退院などの心身状況の変化が生じた場合には、必要に応じて関係者等と話し合い、現状に即した新たな計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを実施・評価し、状況の確認を毎月1回実施しています。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	認知症状等、状況の確認を実施し、本人・家族とともに話し合い他職種とも連携を図り計画を作成しています。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	状況・状態の変化や希望があればその都度開催できる環境整備をしています。	/	/	○	道路を隔てた場所にある同法人のグループホームと合同で、月1回定期会議を開催し、法人本部から運営に関する事柄などの情報共有をしている。また、月1回別々の日にユニット会議を開催し、利用者一人ひとりの課題等の話し合いをしている。事前に、会議の日程調整を行い、できるだけ多くの職員が会議に参加できるようにしている。また、会議に参加できなかった職員を含めて、全ての職員に議事録を確認してもらい、確認後に押印する仕組みづくりをしている。さらに、緊急案件のある場合には、病院との情報共有をするほか、利用者の状況を確認し、管理者等を交えて話し合い、迅速な対応をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	申し送り・カンファレンス時にノートや議事録を活用し意見交換しています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	可能な限り調査し多くの職員が参加できるようにしています。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	伝達ノートに記入し、出勤時に各自確認し押印している。申し送りに口頭でも個別に伝えていきます。	◎	/	◎	日々の朝夕の申し送りを実施している。出勤時に必ず申し送りノートを確認し、確認後に職員は押印をしている。また、重要な情報は口頭でも伝達を行い、確実な情報伝達に繋げている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者に考えてもらいながら選択してもらえ環境や提案する機会を提供しています。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの意向や思いを大切に支援に努めている。また、日常生活の様々な場面で、職員は利用者の状況等に応じた複数の選択肢を提示するように努めるとともに、返事を急がせることなく、待つ支援を心がけ、利用者自身に自己決定してもらえよう支援している。また、事業所には女性の利用者が多く、化粧や身だしなみなどのおしゃれに関する話題提供を行うことで、利用者同士の会話が弾むこともあり、職員は笑顔で楽しい生活が送れるような雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定を促すためにボードやメモを活用し、選びやすい環境を整備しています。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個別ケアシートを活用して本人のペースに合うよう働きかけています。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	自らの居場所であると安心して頂けるよう雰囲気作りをしています。声掛けをして言動・表情の観察をしています。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	日頃からの状態や表情・しぐさを観察して、本人の思いをくみ取れるよう支援しています。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	信頼関係を築けた関係であっても言動の一つ一つに気をつけ適していない場合は個別で注意したり、スタッフ間でも注意できる環境作りをしています。	◎	◎	◎	定期的な法人内研修や勉強会の中で、職員は利用者の人権や尊厳を学び、意識した対応に努めている。利用者一人ひとりの疾患や認知度により対応方法が変化するため、職員一人ひとりの習得度や理解に合わせた研修の機会を提供している。訪問調査日には、職員が丁寧な言葉かけや支援を行う様子が見られ、安心した表情からも、利用者の居心地の良さを窺うことができた。また、居室への出入りの際には、事前にノックや声かけを行い、利用者からの返事を待ってから入室をするとともに、居室の不在時には、事前に入室する理由を利用者に説明し、了承を得た上で職員は入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	希望者には同性介助を実施している。必要に応じて確認を取りながら対応しています。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室する際は、ノック・声掛けを行い了承を得てから入室するよう実施しています。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	知り得た個人情報は外部にもれないように徹底し、常に確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	1人ひとりの得意分野を活かして頂き、達成感・充実感・感謝の言葉を伝えて日々のケアを実施しています。	/	/	/	利用者の認知症の特性を把握した上で、一人ひとりに応じた支援を心がけ、職員は声かけの工夫をするなど、利用者の気持ちが落ち着くような支援に努めている。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、配席を考慮するとともに、大きな声を出すなどのトラブルが起こりそうな場合には、早期に職員が間に入り、話を聞くなどの対応を行い、トラブルを避けることができている。さらに、季節の壁飾りを作成する際には、利用者の特性などに応じた作業を割り振りを行うなど、利用者同士が協力をしながら、完成できるような配慮も行われている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	生活の中で役割分担を確認し、実施しています。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	認知症状の特性を活かしていき、まずトラブルにならない対策を図っています。職員が間に入り共有し対応できるよう実施しています。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	原因の確認を行い、スタッフが間に入り問題解決に努め、再発防止に取り組んでいる。ご家族にも経過報告している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者様の聞き取りを行い個別記録を作成し、変化があればその都度見直し対応している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	電話や手紙を活用して、地域・家族様とのつながりを大切にしています。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	希望の確認を取り、近くに散歩や景色を見に出かけられるよう環境整備をしています。ドライブレク等楽しみを持ってもらっています。	○	x	○	コロナ禍が続き、感染対策による外出制限は設けられているが、事業所では、できるだけ利用者が自由に外出し、気分転換が図れるよう支援している。雨天時以外の日は、日課として事業所周辺を毎日散歩するほか、月2回程度のドライブレクリエーションを行い、今治城等に出かけたり、季節の花を見に行ったりするなど、日頃から外出支援を行うことができている。重度な利用者も一緒に、可能な範囲でリフト車を活用して、出かけることができている。また、家族の協力を得て、病院の受診時に合わせて美容室等に出かけたり、希望に応じてお墓参りに出かけたりするなど、利用者の気分転換にも繋がっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	マンパワーを利用しながら、外出支援を計画し実施できるよう努めています。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症状・特性・種類など、月1回の勉強会を行い知識を深めており、実践の場に活かしています。	/	/	/	職員は法人内研修等で学び、認知症の特性などを理解している。また、タオル体操や散歩、生活リハビリなどを介護計画に取り入れ、利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう支援している。さらに、食後の片付けや洗濯物たたみなど、利用者自身にできることやできそうなことをしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めることで、利用者自らが達成感を得られるような支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	センター方式等アセスメントを個別でしっかり把握していき、職員間・多職種間でも情報の共有を図って、日々のケアを実施しています。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	少し考える時間を提供し、選択する間を作っています。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個別記録の内容、アセスメント、家族様からの聞き取りから内容を把握し対応している。	/	/	/	日々、利用者が楽しみや喜び、張り合いのある生活が送れるように、職員は声をかけ、清掃や洗濯物たたみ、食器の後片付けなどの出番や役割を担ってもらえるよう取り組んでいる。一人ひとりの利用者は楽しみや役割意識を持って手伝い、職員から感謝の言葉を伝えることで笑みがこぼれるなど、自信や満足感にも繋がっている。中には、上手に洗濯がためない利用者もいるが、管理者は「成果が伴わなくても、実際に実施してもらうことが大切である」と考えている。また、家族との交流も利用者の喜びの1つであり、手紙のやりとりなどの支援も行われている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個別ケアに取り組んでおり、認知症状や種類に対して1人ひとりにあった楽しみを提供しています。	◎	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みに合わせて衣類の確認を、本人・ご家族様と協力して対応している。	/	/	/	事業所では、利用者の自尊心やプライドを大切に支援にも努めており、トイレの後に、着衣の汚れや乱れが見られた場合には、職員は気を配り、周りの利用者には気づかれないようにさりげなく声をかけ、誘導などのサポートをしている。訪問調査日には、着衣の乱れや違和感のある装いで過ごす利用者の様子は見られなかった。また、月2回訪問理容の来訪があり、好みの髪型に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室に出かけ、パーマや毛染めをする利用者もいる。さらに、重度の利用者にも日中には着替えをもらい、髪型などの身だしなみを整え、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	衣類選びは、本人・ご家族様とともに相談しながら対応しています。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	次の動作のイメージがつくような声掛けをしながら対応している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その人らしい服装について十分話し合いながら支援しています。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバールしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	生活歴・習慣を理解しながら相談や日々確認を取り、さり気なくカバーできるよう努め対応している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	本に行きつけの理容室には家族様が連れて行かれています。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人・ご家族様の思いを確認しながら対応しています。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事内容・形態も個別対応で満足できる対応している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事内容・形態も個別対応で満足できる対応している。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所内で調理することができていたが、現在は暫定的に、隣接する同法人の介護老人保健施設の厨房で調理されたおかずなどが事業所に届けられ、各ユニットで炊飯や汁物づくりを行い、盛り付けをして利用者に提供している。法人の管理栄養士が献立を作成し、季節の食材を取り入れながら、栄養バランスの取れたメニューとなっている。一人ひとりのアレルギーのほか、嫌いな物がある場合には、代替えの食材を提供するなどの対応をしている。利用者の状態に応じて、刻みやミキサー食などの食事の形態にも対応している。また、月1回利用者の希望のメニューを提供する食事が開催され、事前に職員が好みのメニューの聞き取りを行うなど、事業所内で調理した食事は、利用者に喜ばれている。利用者には、テーブル拭きやお茶を運んでもらうほか、能力に応じて、下膳や食器洗いなど食後の片付けを手伝ってもらっている。入居時に、茶碗や汁碗、湯飲み、箸などの食器類を持参してもらい、使い慣れた物を使用してもらうほか、利用者の状況に応じて、事業所で用意した使いやすい物を個別に使用している。食事の際に、職員は感染対策に留意し、間隔を開けて利用者と同じテーブルで食事を摂りながら、見守りや食事介助を行っている。また、重度な利用者も、食事前にはリビングに出て過ごし、口腔体操を実施するほか、炊飯の匂いや配膳の様子なども感じられ、食事の雰囲気を感じることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	栄養士と相談している。片付けなどできる事はしてもらえよう支援している。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	個別による役割分担を行い利用者様の達成感につなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アセスメントから情報を確認している。苦手なものなど希望がある物は選択してもらっている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	食事会などメニューについては希望を確認し、その都度栄養士と相談し決めている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個別に合わせて対応しています。他職種とも連携を図り、個別ケアに取り組んでいます。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	以前使用していたものを持ってきてもらっています。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	各テーブルにスタッフが座り一緒に食事をとるようにしています。さり気なくサポートできるよう準備しています。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音・匂いなどを感じてもらっており、会話を通してケアを実施しています。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	法人の管理栄養士が1日の摂取量を計算している。月に1回体重測定している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	個別の状態にあった調理を行いバランスの良い食事や食べやすい物を提供しています。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	法人の管理栄養士と相談・確認をし情報の共有をしています。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材を3回(朝・昼・夕)分その都度もらい手指消毒をしっかりと実施しています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後、口腔ケアを実施。必要に応じて声掛け・介助をしています。	/	/	/	歯科衛生士などから指導を受けて、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声かけをして、共有スペースにある洗面台への誘導を行い、口腔ケアを実施している。利用者の状態に応じて、職員は見守りや介助を行うとともに、一人ひとりの口腔内の確認を行い、状況の把握に努めている。また、利用者の状況に応じて、スポンジブラシなどの口腔ケア用品を使用し、適切な支援に努めている。さらに、口腔内の異常が見られた場合には家族に報告し、歯科受診に繋げている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	申し送りやアセスメントから情報を共有し実施しています。	/	/	/		○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	必要があれば歯科医に往診に来てもらい、助言をもらい対応活用しています。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	個別に対応し、必要に応じ介助しています。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎日の口腔ケア以外にも歯科医等に定期的に確認してもらい支援しています。	/	/	/		/
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	個別介助できるようにアセスメントをしっかりと活用しています。またプライバシーにも配慮しながら対応・支援しています。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで用を足すことを基本として支援が行われている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は状態に合わせた声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、紙おむつを使用する利用者もいるが、ほとんどの利用者は日中に紙パンツを使用して過ごし、トイレで排泄をすることができている。排泄用品の使用の際には、利用者の心身状況や排泄状態などを踏まえて、パッドやおむつなどの排泄用品の必要性を職員間で話し合い、家族に相談した上で使用している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	看護師等からの助言や利用者様の状態・水分量・食事・運動を実施し評価しながら支援しています。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個別にケア記録に排泄のリズムを確認・把握しています。利用者様の癖・しぐさを確認しています。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	個別対応するために排泄についてはアセスメントを通して把握しています。パット・オムツについては本人様・家族様と相談して対応しています。できる限りトイレ誘導介助している。	/	◎	/		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	申し送りやカンファレンスを通して意見を出し合い、本人様・家族様と相談しながら対応・支援しています。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	自然に排泄できるように個別ケア記録を確認しながら介助・支援しています。	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	個別ケア記録を確認しながら職員間で話し合い、内容を本人様・ご家族様に伝え相談していき、自己決定ができる環境作り対応・支援しています。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	尿量に応じてパット・オムツ・下着と使用を分けて対応しています(日中・夜間)適時個人に応じて対応しています。	/	/	/		/
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	日中の活動や水分量に気をつけながら看護師等にアドバイスをもらい、個別対応できるように取り組んでいます。	/	/	/		/
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	個別に入浴について確認を取り、希望に添えられるよう努めています。温度を毎回必ず職員が測っています。	/	/	◎	/	週に2~3回程度、利用者は入浴することができる。事業所の行事のほか、職員の勤務体制により、午前中の時間帯を中心に入浴支援を行うことが多いが、湯温や湯船に浸かる時間の長さなど、体調に問題のない範囲で利用者の希望に添った支援に努めている。また、事業所では毎日の入浴も可能なように浴室の準備を行い、利用者から希望が出された場合には、入浴できるように対応している。また、利用者の体調のほか、希望により入浴できない場合には、シャワー浴や足浴に対応するとともに、清拭などを行い、清潔保持に努めている。さらに、入浴時には自分でできる部分の洗身をしてもらい、職員はできない部分のサポートをしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個別対応しており希望についても確認しています。	/	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	アセスメントを通して自分でできることは対応してもらい、必要に応じて介助しています。	/	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	個別に確認しながら安心してできる環境を作り、会話を通して入浴支援をしています。	/	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル確認や皮膚の確認、必要に応じて看護師等に確認・対応しています。	/	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個別に状態の確認し、体調についても把握しながら記録し情報の共有を図っています。	/	/	/	事業所では、体操や散歩などを取り入れて、日中を活動的に過ごしてもらうことで、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。管理者は、「早い時間帯に入眠する利用者もいるが、夜間目覚めても睡眠時間が確保できていれば、個々の生活リズムの範囲である」と考え、無理強いをしない支援にも努めている。中には、なかなか寝付けない利用者もあり、飲み物を提供して職員と一緒に話をしながら過ごすなどの支援を行い、安易に薬に頼らない支援を心がけている。また、不眠が続き、日中の活動に支障をきたす場合には、利用者の状態を伝えて看護師や医師に相談し、眠剤を処方してもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動や本人の状態について確認しながら必要に応じて医師から助言をいただき支援しています。外気浴・散歩等も行ってリズムを整えている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	申し送りにて利用者様の状況・状態を確認し共有しています。必要に応じてその都度医師に確認ができる環境を作っており対応・支援しています。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その日の状態に応じて個別対応しています。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族様に確認しながらプライバシーを守り個別に対応しています。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	個別対応にて調整しながら支援しています。ご家族様には事前連絡を取り確認しています。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個別に対応しながら、希望時対応しています。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのまませず音信がとれるように工夫している。	○	本人様・ご家族様と一緒にやり取りできるよう支援しています。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	事前にご家族様と確認・相談して、本人様からの希望に対応できるよう支援しています。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人の思いについて確認しています。お金の管理はご家族様をお願いしています。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	希望に応じて協力しています。ご家族様と連携を図りお願いしています。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	必要に応じて本人様と確認しながら対応しています。ご家族様に伝え協力をお願いしています。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会やカンファレンス、日頃から必要に応じて本人・ご家族様と話し合っています。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	日常のお金は預かっていませんが、必要な時はご家族様が管理して対応されています。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	地域の交流を深めており、柔軟な援助やサービスに取り組んでいます。	◎	/	◎	コロナ禍が続き、面会や外出などの制限が設けられていたが、利用者や家族からお墓参りなどの外出希望が出された場合には、法人本部と相談しながら、可能な範囲で柔軟に対応している。また、病院受診の際に、家族の同行支援の対応できない場合には、職員が付き添い、受診対応をすることもある。さらに、経済的な理由や体調の改善などで退居の希望が出された場合には、在宅サービスの情報提供をするなど、その時々ニーズにも対応している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	利用者様が安全に利用できるよう、また座って休めるよう雰囲気大切にしています。	◎	◎	◎	事業所の周囲には、手入れされた山茶花や紅葉の植栽が植えられ、風通しや見晴らしも良く、来訪しやすい雰囲気が感じられる。また、玄関前はすっきりと整理され、玄関前や玄関フロアにはベンチが置かれ、来訪者や利用者はゆっくり休めるようになっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	一緒に作成した作品を飾ったり、窓から田園風景や山を眺めることができ、心地よく過ごせる環境を準備しています。	◎	◎	◎	広々としたリビングには小上がりの畳コーナーがあり、利用者の作業スペースなどに活用されている。大きなガラス窓から採光が入り、明るい共用空間から、利用者は田園風景や遠くの山並みを見渡すことができるなど、開放的な雰囲気が感じられる。また、リビングの壁には利用者の共同作品である月見の貼り絵が掲示され、窓から見える景色とともに、利用者は季節を感じる事ができる。さらに、事業所内は掃除や換気も行き届き、気になる匂いなどもなく清潔感があり、快適な空間となっている。訪問調査日には、利用者が思い思いにジグソーパズルを楽しんだり、職員と一緒に畳コーナーに腰を掛け、外を眺めながらおしゃべりしたりする様子を見ることができた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	認知症状に合わせて対応できるような情報を共有したり、掃除を行ったり対応しています。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感のある壁画を作り生活空間を楽しむことができる作品と一緒に作って、空間を共有しています。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	本人様の思いを大切にしたり、認知症状や種類に応じて事前に配慮して共有しています。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人様・ご家族様の写真や使い慣れたものを準備したり持ち込んでもらい、安心してもらっています。	◎		○	居室には、エアコンやベッド、チェストや椅子が備え付けられているほか、大きなクローゼットに荷物などを収納することもでき、すっきりと片付けた空間も多い。中には、テレビを持ち込むほか、家族の手紙を飾るなど、一人ひとりに合わせた居心地の良い空間となるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	認知症の症状・種類に合わせて対応できる職員間で情報を共有し、個別に対応できるよう支援しています。			○	居室の表札には氏名を記載しているほか、それぞれ違った花や草木の造花を飾り、目印にしている。認識することが難しい利用者には、個別に居室の入り口に花飾りを付けたり、大きなトイレの表示や矢印を貼ったりするなどの工夫をしている。また、居室のチェストには、中に入っている物を分かりやすく表記をしたり、洗濯物を自分で出せるように、洗濯ネットを用意したりするなど、利用者の自立を促す工夫をしている。さらに、夜間に利用者の声かけをする際には、利用者の状態に応じて、電気や点灯の有無のほか、声かけの仕方を変えるなど、混乱しないように職員は個別に対応している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	事前に情報の確認を取り、情報として先回りして準備し、さりげなく使用できるよう対応しています。家庭的な雰囲気を大切にしています。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	居室・玄関には鍵を使用せず、認知症の特性も理解していき対応しています。	◎	○	◎	職員は、ユニットの入り口や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中に施錠は行われていない。外に出ようとする利用者には職員が付き添うとともに、何をしたいのかを傾聴し、満足できるような対応に努めている。訪問調査日には、2階ユニットのエレベーターホールで聞き取り調査を実施していたが、利用者が自由に出入りする様子が見られ、その都度職員と一緒に付き添って1階に降りたり、窓から景色を眺めたりするなど、利用者の意向に沿うような対応を確認することができた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居前や日々の会話の中で安全管理について説明しています。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別記録を確認し情報を共有し職員間で確認しています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者様の状態・状況について日々の申し送りやケアの中で変化や異常について確認し、情報の共有をしています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	広瀬クリニック・広瀬病院と連携を図り、日常の健康管理をしている。24時間医療の連携についても可能な支援を行っています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望のかかりつけ医とも連携を図り、その都度医療が受けられるよう相談・対応・支援しています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	個別に対応しています。緊急時等も対応できる環境を整備し支援しています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	状況に応じて個別に対応しています。その都度相談・対応・支援できる体制を整備しています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	個別記録やサマリーに記入し、必要に応じて連絡できる体制にしています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医や医療従事者と連携し話し合い、ご家族様と相談し協力しています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	事業所内に看護師1名在籍しています。その都度確認を取り対応できる環境です。緊急時も連携を取り対応できるよう体制を作っています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医や協力機関と連携を行い、24時間医療連携可能な支援を行っています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	小さな症状変化にも個別に早期対応できる体制を確認し、その都度支援しています。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	内容について職員間で情報を共有し、個別に対応できるよう服薬支援しています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬を出す前・本人様の前・服薬前に確認し飲み忘れがないよう担当を決めて対応しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	個別の状況について情報を共有しています。かかりつけ医と連携・相談しています。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時等に意向を伺っています。個別状況に応じてその都度話し合いながら方針の共有を図っています。				事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時に、利用者や家族に対応できることを説明し、意向を確認している。毎年、家族等から意向を確認し、事業所として、看取り介護等の同意書を再度取り直している。これまで、事業所として5件の看取り支援の経験があるものの、法人やグループ内には病院のほか、特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設等もあり、利用者の重度化に伴って転院する利用者が多く、近年では事業所での看取り介護は行われていない。また、24時間の医療連携体制が整備されているほか、看取り支援などの職員教育なども行われ、利用者や家族には安心感がある。さらに、重度化した場合には、利用者や家族の意向を踏まえて、主治医や関係者で話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要に応じてカンファレンスを実施し対応できる体制を作り方針を共有しています。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	主治医の意見を確認しマニュアルにそって職員と話し合い見極めを行っています。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に看取りの方針について説明を行い理解を得ています。必要に応じてその都度内容の確認をしています。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	24時間医療連携可能な体制を整えています。常に情報の共有を図り、協力病院と連絡体制を整えています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や必要に応じてその都度話し合い対応しています。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会や日々の申し送りの中で確認を取り情報の共有をしています。内部研修・外部研修を実施している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそって対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成しており常に準備しています。マニュアルの内容についても職員間で情報を共有しています。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	法人・事務所内で最新の情報を共有できるよう対応しています。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	マニュアルにそって内容について確認できるよう支援しています。また、衛生管理の徹底を図っております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日々の生活状況について連絡を取り、会話し、ご家族様との信頼関係を築いています。	/	/	/	コロナ禍以前には、法人・事業所として毎月家族会を開催し、一緒に食事をするなど、交流を図ることができていた。現在は、集合形式での家族会の実施はできていないが、職員が家族から電話で意見や要望を聞くなど、家族会の記録を残すことができている。コロナ禍が続き、感染状況に応じて、ガラス越しやリモートの面会などに対応をしていた。5類に移行した現在も、地域の感染者は増加傾向にあるため、対面での面会時にも制限を設けられ、お互いに触れ合うことはできないが、法人本部と相談しながら、今後の対応方法を検討している。また、月1回程度、職員は家族に電話連絡を入れ、利用者の近況を伝えるとともに、必要な差し入れなどの要望があれば伝えて事業所に持参してもらうことで、利用者との直接会話ができる機会にも繋げている。さらに、家族会等のこれまでの関わりから、家族との良好な関係が築かれ、近隣に住む家族も多いことから、家族同士の横のつながりなどの関係もあり、職員は様々な意見を聞くことができている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	ご家族様が関わりやすい雰囲気作りを大切にし訪れやすい環境作りを行っています。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族の来訪時、行事の内容や日々の生活についての情報を共有したり、写真や作品を見てもらいご家族様に理解を得ています。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症等について説明して個別状況について理解を深めてもらい状態・状況について話し合い共有しています。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	必要な情報については説明しながら個別対応し、その都度協力を得られるようにしています。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居前に説明しながらその都度必要に応じて話し合っています。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	相談しやすい環境を整えており意見箱の設置、相談できる場所を提供しています。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し理解を得ています。変更があればその都度説明・同意を得ています。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	個別に対応できるよう相談できる体制になっています。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の方に事業所の目的や役割を説明しています。電話や郵送を活用したり対応しています。	/	◎	/	コロナ禍が続き、事業所周辺の散歩時に、あいさつを交わす程度に留まっている。以前と比べて、地域行事の開催も減少しているが、今年5月には、地域の神輿の来訪があり、利用者を楽しんでもらうことができた。管理者は、自治会との連絡を密に取りながら、地域の情報を得て、積極的に地域行事への参加に努めている。盆踊りなどの地域行事に参加する際には、ヒロセの職員等として参加協力し、職員は地域住民から認知されるように努めている。また、法人・事業所として、女性コーラスグループのボランティアの受け入れも予定しており、今後管理者は、「近隣の保育園や中学校との交流を再開したい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方への挨拶や学生の見守りなどご利用者様と一緒に参加しています。地域の盆踊り、文化祭等に参加している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	地域方からも声をかけてもらいながら行事に参加できて交流しています。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方もゆつくり休んでもらえる環境を整えています。相談に対応できるよう努めています。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	事業所の目的を理解してもらっており相談される機会も増えています。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事についての連絡が事業所にあり情報の共有を図っています。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の行事や事業所内での活動について情報の共有ができる場を設けています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在は郵送にての対応で電話や手紙を活用し対応しています。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、地区総代、民生委員、元民生委員、婦人会、事業所職員、市担当者等の参画を得て開催している。コロナ禍のため、書面開催が続いているが、会議の参加メンバーには事前に電話連絡して運営状況を報告し、意見の聞き取りをしている。また、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画、取り組み状況などの報告をしている。事業所の状況や行事報告を記載した会議録を全ての家族に送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	外部評価の取り組みや評価・内容など地域・ご家族様に報告しています。公表しています。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	現在は郵送にて対応しています。必要に応じてメンバーについて増やせるよう努力しています。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念について職員全員で確認統一し、その人らしい生きがいのある生活を送って頂けるよう努めています。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	利用者様・ご家族様・地域の方に説明しています。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修や勉強会に参加できています。研修会についても外部への参加など支援しています。	/	/	/	法人として、定期的に法人内研修を実施し、職員のスキルアップに努めている。外部研修への参加や介護福祉士の資格取得などを職員に促し、研修費用の助成や必要な休暇取得の支援を行い、職員が向上心を持ちながら働けるような配慮が行われている。また、代表者は、訪問診療で月2回来訪し、管理者から意見を聞くほか、職員から出された意見を伝えることもできる。さらに、日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にして、話しやすい雰囲気づくりに努めている。加えて、法人内に相談窓口を設置するほか、ストレスチェックを実施するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個別に必要に応じて参加できる環境を作り、相談も受けれるよう取り組んでいます。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各自が向上心を持って働けるような職場環境が整っています。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	県・市主催の研修や活動に参加できる機会があり、同業者と交流する場を設けて意見交換しています。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	何でも言える雰囲気作りを行っています。ストレスチェックを活用しています。必要な場合、面談も実施しています。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	勉強会や研修に参加し学んでいます。マニュアルや指針を通して理解をしている。	/	/	◎	事業所には、「虐待防止対策指針」があり、定期的に研修を実施し、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。また、職員は高い意識を持ち、気になることはお互いに注意し合うとともに、上司に報告して、話し合いの場を持つことができている。さらに、大きな声やきつい言葉づかいなど、職員の無意識な行為に対しても、管理者から個別に該当職員に注意喚起を行うとともに、職員間の気づきを得られるような働きかけをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアの中で良いケア等見えたときに振り返ったり話す機会を設けています。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員と話す機会を設け事前に確認や注意・点検をしています。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルや指針について確認し事例を上げ確認し理解しています。定期的に研修会を実施して、職員の意識向上を図っています。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会や自立のケアの中から話し合い点検しています。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	その都度話し合い説明できる環境を作り、ご家族様に理解して頂いています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者が家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会や書類を活用し内容の確認を行いながら職員の理解を深めています。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	情報の共有を図りながら必要に応じて連携を図っています。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルの内容確認を常に実施し協力しながら対応しています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会を活用しながら理解を得て対応しています。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを活用して職員全員で情報を共有して再発防止に努めています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個別の対応を確認し事故防止に取り組んでいます。情報を職員で共有しています。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成して理解を得ています。議事録にまとめ周知しています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	窓口を設置し対応しています。その都度相談・説明しています。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	問題点について把握・検討し結果を報告し、理解を得られるよう努めています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	窓口を設置したり希望や意見を話しやすい環境を作り対応しています。	◎		○	事業所の玄関には意見箱を設置し、利用者や家族から意見や要望、苦情を伝えられるようにしているが、あまり活用されていない状況となっている。日々の生活の中で、利用者から意見を聞くとともに、回答しづらい利用者には、状況に応じて「はい、いいえ」で答えられるように、声かけの仕方の工夫をしている。家族からは、電話連絡時や来訪時に意見や要望などを聞き、可能な範囲で対応をしている。また、管理者は話しやすい雰囲気づくりを心がけ、毎月実施する定期会議のほか、日々の業務の中で職員から意見や聞き、サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりに繋げている。必要に応じて、管理者は職員との個別面談も実施している。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会時や意見箱の設置、それ以外でも要望についても確認できる体制を作っています。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	全体会議や訪問診療時など意見交換の場を設けています。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや申し送りの前後で少し話し合う機会を設け確認しています。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義や目的を理解し自己評価を実施し取り組んでいます。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果や目標達成計画、取り組み状況は、運営推進会議や家族会の中で報告しているが、現在の書面開催では一方的な報告になりがちになっている。コロナ禍の収束後には、集合形式の会議でサービスの評価結果や目標達成の状況を報告して意見をもらったり、家族や会議の参加メンバーに呼びかけて、目標達成の取り組み状況のモニターに協力してもらったりするなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価について確認し結果から課題について把握し話し合い、目標達成について取り組んでいます。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果について参加メンバーに確認してもらい、今後について一緒に目標の確認・達成を目指すしています。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みや成果を確認し、目標達成について確認しています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知しています。その都度確認しています。	/	/	/	法人・事業所として、大規模災害時等のマニュアルを整備し、職員に周知している。事業所では、隣接する介護老人保健施設等と合同で、年2回日中や夜間を想定した避難訓練等を実施している。また、地域の防災訓練にも参加協力し、協力支援体制を構築している。さらに、運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施することで、地域住民や家族から事業所の災害への備えに対して、理解が得られるよう努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中夜間を想定した訓練を計画して実施しています。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	設備の点検・避難経路の確認・非常食・備品の点検を行っています。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署には訓練時通知して、訓練の実施・内容について手紙や電話にて話し合う機会を作っています。	○	◎	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方に訓練内容を説明し、地域の管理している方々と対応方法を確認しています。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	情報については発信していき、内容は手紙・電話を活用し報告しています。	/	/	/	法人・事業所として、隣接する介護老人保健施設等と連携して相談支援が行われている。また、老人保健施設内には広い玄関ホールがあり、地域住民に対してイベント会場に開放するなど、地域貢献や啓発活動にも取り組んでいる。さらに、管理者は居住する地域で、認知症サポーター養成講座の開催に協力したこともある。加えて、市行政や地域包括支援センター、市グループホーム連絡会等と連携して、会議や研修等に参加協力をしている。コロナ収束後には、地域貢献活動の再開も期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域と連携を取りながら相談できる体制を作っています。	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	事業所の目的について説明しています。介護の相談窓口としても利用されています。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	幅広く実習生の受け入れなど協力しています。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地方祭への参加や計画を地域の方と一緒に考えながら取り組めるよう努めています。広報誌を作成し情報を発信しています。	/	/	○	